



# 小原田小学校だより

【教育目標】心身ともに健全で正しい判断力を持ち、自主性・創造性に満ち、心豊かなたくましい児童の育成

○すすんで学習する子(知) ○思いやりのある子(徳) ○たくましい子(体)

第46号 令和4年3月8日発行

## 全校集会

1日に全校集会を行いました。まず、表彰を行い、各種コンクールで入賞した児童を讃えました。次に、校長から「自分のいのちは自分で守る」ことについて話しました。約1年前に起きた大きな地震。今回は子どもたちにもしもの時のことについて伝えました。地震が起きた時には、危険な物は「おうた」(お…落ちてくる物・う…動いてくる物・た…倒れてくる物)の合い言葉で覚え、自分の身を守ることに繋げてほしいと思います。また、頭を守ることや危険な所から離れることなども伝えました。いつ起こるか分からない災害から身を守る知識や知恵を身につけて、もしもの時に正しく行動し、自分を守ってほしいと思います。進行やはじめ・終わりの言葉の児童も上手でした。

## 残り2週間余り



今年度も残すところ2週間余りとなりました。一年間、「あいさつができる」「学習ができる」「運動ができる」「人にやさしくことができる」ことを目標に子どもたちは努力を積み重ねてきました。その結果、様々な点でよりよい変容がみられ、うれしく思います。今後残りの期間の教育活動を充実させることで、子どもたちの「知育・徳育・体育」の能力向上に向けて努力していきたいと思っています。



## 東日本大震災から11年

2011年3月11日に発生した東日本大震災から11年になります。小学校の高学年生でもほとんど記憶に残っていないかもしれません。私は、地震が起きた時刻に郡山市内の小学校に勤務していて、立っているのもやっとという状況で何が起きていてその後どうなるのか、全くわかりませんでした。校内では、テレビやパソコンなどが壊れたり、校舎にもひび割れが数多く見られたりしました。しかし、その後目にすることになる郡山市内の至る所でブロック塀の倒壊や家屋の損壊等は想像を超える惨状でした。食料や飲料水がなく、ガソリンを手に入れることもままならないという、とてもつらい日々が待っていました。しかし、その後知る津波による被害や原子力発電所の事故等は、さらに悲しい出来事でした。しかし、そのような中でも、困っている人を助けようとする多くの人たちがいたことに勇気づけられました。郡山市では、九州から水を運んでくれたみなさんがいました。私も、公園でその方たちから水を分けてもらい、心から感謝の気持ちでいっぱいになったことを忘れたことはありません。(この話は、道徳科の教科書に教材として掲載されています。)

人は、悲しさや絶望の中でも、思いやりの心や希望を持つことで、未来が開けてくることも事実であることを学びました。

東日本大震災から11年。子どもたちには

- 万が一の時に「自分の命は自分で守る」ことを意識して、自分で考えて行動すること。
- 普段から困っている人がいたら思いやりの心で手をさしのべること。
- 元気に楽しく生活できていることに感謝の気持ちをもつこと。

を意識する機会としてほしいと思います。